

案件概要書

2018 年 8 月 1 日

1. 基本情報

- (1) 国名：インド国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：マハラシュトラ州ナグプール市
- (3) 案件名：ナグプール市ナグ川浄化計画 (Project for Pollution Abatement of River Nag at Nagpur)
- (4) 計画の要約：本計画は、マハラシュトラ州ナグプール市ナグ川流域及びピリ川流域において下水道施設及び公衆衛生施設を整備することにより、河川の汚染の防止・改善及び住民の衛生環境の改善を図り、もって貧困・環境問題の改善に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

日本とインドは、2006 年 12 月のシン首相（当時）訪日の際に、民主主義等の共通の価値と幅広い共通の利益を基盤とする「戦略的グローバル・パートナーシップ」を構築して以降、毎年開催される首脳会談を通じて、日印関係が最も可能性を秘めた二国間関係であることを確認し、継続的な協力関係を構築してきている。特に 2014 年 5 月のモディ首相の就任以降、両国関係は一層強化されており、同年 9 月に両国の関係を「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップ」に引き上げ、2015 年 12 月の安倍総理の訪印時には、日印関係が新時代に入ったことを確認し、二国間の協力及び地域と国際社会における協力を前進させることを再確認している。また、2017 年 9 月の安倍総理訪印時には「両国のパートナーシップを新たな次元に引き上げるべく協力することを決定」とするとともに、日本の「自由で開かれたインド太平洋戦略」とインドの「アクト・イースト政策」の連携に向けた取組の強化を誓うなど両国の関係強化が着実に進んでいる中、円借款を始めとする ODA を通じて、経済・社会開発を進めるインドの取組を支援することは、こうした日印二国間関係の更なる強化につながる。

モディ首相は、「クリーン・インド」政策を提唱し、我が国は、首脳会談等を通して、これまで継続的に本取組への支援を表明してきており、本計画は、これを具体化するものとして位置づけられる。また、モディ首相は 2014 年に 500 都市で上下水、都市交通等整備を推進する「アタルミッションイニシアティブ」を提唱し、この中で全家庭に上下水へのアクセス提供を強調しており、本計画は、全戸下水道接続を後押しするものとして右イニシアティブにも貢献するものと位置づけられるところ、本計画への支援はインド政府からの期待に応える具体的な取組として、重要な意義をもつ。

- (2) 当該国における下水道セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

インドでは人口増加や経済発展に伴う上水需要の増加に伴い下水の排出量も増大しているが、現状の下水処理施設の処理能力では汚水発生量の 30%程度（2009 年）

しか処理できておらず、衛生施設へのアクセス率も 39.6%（2015 年，世界銀行）と低い。その結果，各地で河川や土壌，地下水の水質汚濁等の問題を招いており，地域住民の衛生・生活環境に影響を与えている。また，下水道サービスを担う事業体は，低い戸別接続率，低い料金徴収率，人材不足等，運営・維持管理の面での技術的・財務的な課題を抱えている。

インド政府は，2008 年に発表した国家都市衛生政策（National Urban Sanitation Policy）において，都市部全人口への下水・衛生施設の提供を政策目標として掲げており，2015 年にモディ政権が設置した政策立案機関（National Institute for Transforming India。以下「NITI Aayog」という。）も，2017 年に発表した 3 年行動計画（Three Year Action Agenda 2017/18 to 2019/20）において，都市開発における課題として上下水道の不足を挙げている。また，先述のクリーン・インド政策では，2019 年までに野外排泄の撲滅等によるインド全土の環境改善を目指しており，同じくアタルミッションイニシアティブにおいても上下水道を含む都市インフラの整備が進められている。本計画は，マハラシュトラ州ナグプール都市部において下水処理施設を整備するものであり，これらの政策を具現化するものとして位置付けられている。

本計画の対象地域であるマハラシュトラ州ナグプール市は人口約 250 万人（2011 年，国勢調査）を擁する。同市はピリ川流域の北区，ナグ川流域の中央区，ポーラ川支流流域の南区の 3 地区からなり，ナグ川は同市中央区を約 17km，ピリ川は同市北区を約 18km に亘り横断している。急激な都市化の影響によりナグ川，ピリ川には未処理の汚水が流れ込んでいるが，両河川ともに水量が少なく，雨季以外には汚水のみが流れている状況にあり，人口が集中する同市北区，中央区の住環境に多大な悪影響を及ぼしている。また，両河川は下流で灌漑・工業用水に利用されるダムに流れ込んでいるため，河川の汚染によるダムの汚染も深刻化しており，マハラシュトラ州公害管理局（Maharashtra Pollution Control Board）はダムの汚染源であるナグ川，ピリ川の浄化をナグプール市に申し入れている。かかる状況下，本計画は下水道施設の整備等を行うことにより，同市を流れるナグ川，ピリ川の水質改善を図り，両河川流域及びその下流域住民の衛生・生活環境の改善に寄与するものである。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

- ア) 下水道施設（下水処理場，ポンプ場，下水管渠等）の建設，改修及び復旧
- イ) 公衆衛生施設（公衆トイレ等）の建設
- ウ) コンサルティング・サービス：協力準備調査にて確認（詳細設計，入札補助，施工監理，コミュニティ啓発活動支援等）

② 期待される開発効果：住民の衛生・生活環境改善，水系伝染病の軽減による貧困・健康状態の改善等に寄与することが想定される。

③ 借入人：インド大統領（President of India）

④ 計画実施機関／実施体制：環境森林省国家河川保全局

- ⑤ 他機関との連携・役割分担：特になし。
- ⑥ 運営／維持管理体制：環境森林省国家河川保全局が本計画の実施機関となり、ナグプール市が運営・維持管理を担うことが想定されるが、協力準備調査により改めて確認する。

(2) その他特記事項

- ① 環境社会配慮：本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大ではないと判断されるためカテゴリ B に分類される。
- ② ジェンダー分類：主流化ニーズについて協力準備調査にて確認する。
- ③ 本邦技術の活用：分散型污水处理（浄化槽）、簡易トイレ等の活用可能性について協力準備調査にて確認する。
- ④ 他の援助機関の対応：協力準備調査にて確認する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

インド向け円借款「地方上下水道・衛生環境整備計画」の事後評価結果等から、事業の円滑な実施及び持続性確保のために、新料金体制の検討、戸別接続支援、運営・維持管理体制強化、財務管理強化、意思決定プロセスの合理化及び広報活動支援が重要であるとの教訓を得ている。本計画では組織強化に係るコンサルティング・サービスを通じて、実施機関の運営・維持管理体制、財務管理等に関する組織強化を支援するとともに、必要に応じて適切な料金体系や下水管の戸別接続推進等を検討する。また、下水処理施設の重要性に関する市民の理解を更に高めるため、広報・啓発活動を実施する予定。

以 上

[別添資料] 地図

ナグプール市ナグ川浄化計画 地図

